獨 協 医 学 会

会　長　寺　野　　彰（獨協医科大学学長）

運営委員会委員

秋山　一文*　杉田　憲一**　石光　俊彦　石井　芳樹　犬飼　敏彦
入江　嘉仁　上田　善彦　内田　幸介　遠藤美根子　大平　修二
大類　方巳　黒須　　明　小端　哲二　榊原　伸一　篠田　元扶
千種　雄一　中元　隆明　濱口　眞輔　籏持　　淳　服部　良之
平林　秀樹　深澤　一雄　本田　幹彦　緑川由紀夫

*委員長　**副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

小端　哲二*　千種　雄一**　石光　俊彦　石井　芳樹　犬飼　敏彦
上田　善彦　遠藤美根子　中元　隆明　籏持　　淳　服部　良之
平林　秀樹

*委員長　**副委員長

編集事務員

鯉沼　行子

編 集 後 記

35巻2号をお届けします．本号には，原著論文5編と症例報告3編が含まれている．また，第35回獨協医学会の抄録を含めたプログラムと会計報告が掲載されている．原著論文の中には国家試験100％を目指す我が獨協医科大学としても国試模擬試験でのマークシートの解析は大変重要な解析で有り，さらに，医療系大学生の朝食欠食とライフスタイルの検討は大変興味深い内容である．また，他の論文の数は少ないが，各々興味深い報告が掲載されており，会員の皆様には満足頂ける内容であったと思います．

さて，2008年の日本は医師不足や後期高齢者医療制度などの医療問題から始まり，秋葉原や大阪での殺傷事件が新聞やテレビのニュースで毎日のように見られ，新聞などでは病める日本としても掲載されている．また，岩手・宮城内陸地震や世界的な異常気象などの環境変化なども発生しており，日本も世界もどうしたのだろうかという思いである．産科医，小児科医や麻酔医などの不足により病院の閉鎖が見られるようになり，近くの病院にすら通えなくなった患者さんが増えている．先日の病理学会の発表では，全国の病理専門医は65歳以上を含めてわずか約1900名である．すべての領域の最終診断を担当するにはあまりにも少ない専門医の数である．獨協医科大学病院，獨協医科大学越谷病院でも毎年多くの医師，看護師および事務員などが退職している．医師不足の対策の一つとして病院では女医の労働環境整備に着手するところもみられ，同窓会などでは，女医のネットワーク作りなども始まっている．医学部の定員増加も近々始まるであろうが，効果が出るまでには時間が掛かり，大学によっては診療科により給与の格差を付け，教授などの数を増やして人員確保に奔走している．外部より優秀な人材を確保することも重要なことであるが，内部環境の整備により，退職者の減少も図れるのではないだろうか．医療の現場にいる我々も，我が大学および病院の生き残りとして何に貢献できるか，何に提言できるかなどをもっと身近な日常の話題としてもよいのではないか．

（上田善彦）

2008年7月20日印刷　　第35巻　第2号
2008年7月25日発行

編集発行人　獨協医学会
寺　野　　彰

発　行　所　獨協医学会
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
獨協医科大学
Tel（0282）86-1111（内線2009）

製　　作　教　文　堂
〒162-0804 東京都新宿区中里町27
Tel（03）3260-6136